

## 「令和8年度第2回高知県教科用図書選定審議会」

開催日時：令和8年6月5日（金）13：30～16：00

開催場所：高知共済会館 3階 大ホール「桜」

出席者：

（委員）

松本秀彦会長、岡村君代副会長、井上久美委員、清水幸賢委員、  
小笠原幸子委員、柏原智子委員、佐藤京子委員、堀ゆかり委員、  
高橋弘江委員、竹内信人委員、織田敦子委員、平石勝久委員、  
山中由香委員、北山幸治委員

※欠席委員：三木守委員、北村邦彦委員、田邊裕貴委員、黒瀬渡委員、  
岡村光幸委員、松田文雄委員、（計20名）

（事務局）

濱川智明教育次長

小中学校課：高橋課長、伊吹課長補佐、松村チーフ、中谷指導主事

特別支援教育課：谷澤課長、坂本課長補佐、吉井チーフ、

吉村指導主事、前田指導主事、宮地指導主事、杉元指導主事

---

### 「開会」

#### 1. 開会

会議冒頭に事務局（司会）より会議を非公開とする提案があり、承認された。

（非公開とする理由・・・審議会等の会議の公開に関する指針、3 公開基準（2））

#### 2. 高知県教科用図書選定審議会 会長挨拶

#### 3. 選定資料案の報告、質疑、審議

事務局より、選定資料案についての報告があり、その後、質疑、審議を行った。報告に係る概要は以下のとおり。

##### （1）一般図書・総括

・調査員11名

・特別支援学校、特別支援学級に在籍するお子さんの中で検定教科書を使用することが難しい場合は絵本などの一般図書を教科書として使用することが法令により認められている。一般図書についても、検定教科書と同様に調査、審議を行い、あらかじめご意見をお伺いすることが義務付けられている。

・調査対象は10冊。

・本県においては、従前から選定審議会において調査、審議を積み重ねた一般図書と点字図書が、絶版4冊を除くと606冊ある。この606冊に今回の10冊を加え、616冊となる。

## (2) 総括についての質疑及び審議

(委員)

今回の10冊の図書について、今年度特に特徴的であった点について、個別の審議の前に総括的な説明をお願いしたい。

(事務局)

今回調査した10冊は、様々な仕掛けや操作、体験的な活用ができる絵本が多く、小学部1・2段階の国語や算数等での活用を想定している。その一方で、中学部の職業・家庭で活用されるような情報や進路に関する内容を扱う図書も含まれている。これらが今回の大きな特徴である。詳細については、この後の個別説明で報告する。

## (3) 一般図書報告

- ・選定資料には、図書名、発行者、著作名、図書の大きさ、ページ数、定価等を記載している。
- ・想定される使用例（教科・段階等）について説明。知的障害特別支援学校の各教科は、小学部は国語、算数、生活、音楽、図画工作、体育の6教科。中学部は、国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、職業・家庭の8教科で構成されている。
- ・小学部は3つの段階、中学部は2つの段階により目標及び内容を示している。小中学校と異なり、学年ではなく、段階別に内容を示すのは、発達期における知的機能の障害が、同一学年であっても、個人差が大きく、学力や学習状況も異なっているため、段階を設けて示すことにより、個々の児童生徒の実態等に即して、各教科の内容を精選して、効果的な指導ができるようにしている。
- ・10冊の調査内容について説明。

## (4) 報告についての質疑及び審議

(会長)

「ぼうしかぶって」には、野菜は出てくるが、人は出てこないのか。本を読み終えた後に、自分たちで帽子をかぶったら楽しいのではないか。

(事務局)

今回は果物や野菜が登場し、パターン化された内容で構成されている。授業で活用する際には、実生活の体験と結び付けて学習できるのではと考えている。

(委員)

1番「ぼうしかぶって」は色彩がはっきりしており、様々な使い方ができると思う。

2番「びりびり」は、選定資料に「ちぎり絵のような質感のあるイラスト」と表記されているが、どこまで伝わるのかは疑問がある。また、絵本の通りに紙を破っても絵本と同じ形にはなかなかならないので、授業で活用するには工夫が必要なのではないか。

4番の「バスプッパー」は、本物の音が鳴るような絵本が多く市販されている中、あえて音の出ない本書を選定した理由は何か。

(事務局)

2番「びりびり」については、特別支援学校では紙を破る、ちぎる学習がよく行われており、その導入として絵本を活用すると、楽しく活動につなげられると考え選定した。質感の表記については、検討の余地がある。

4番の「バスプッパー」については、すでに過去に選定済みの図書には、音が鳴る図書もあるが、今回の本は仕掛けそのものを楽しんだり、凹凸の触感を感じたりできる。感覚と一致させながら学ぶことが適している子どもの選択肢として考えた。

(委員)

4番の「バスプッパー」は子供心がくすぐられる。音が鳴る絵本は、誤作動で突然鳴ることなどもあるが、これなら安心して楽しめる。

(事務局)

バスの降車ボタンの仕掛けが、ページ内の全ての降車ボタンと連動しているなど、細かな仕掛けがリアルで面白いという点で、同じ意見である。

(委員)

6番の「さんすうだいすき第1巻」は、主題の明確な問いが書かれており、読み進めることで自ら問いを意識化して考えられると思う。また、本書をテーマにして具体物を用意した授業づくりができると感じた。

(事務局)

専門調査でも同様の意見が多く出た。特別支援教育においては、図書だけでなく具体物も用いて学んでいくことが重要であるとする。

(委員)

通常の教科書では二次元コードが増えているが、今回の図書における掲載傾向はどうであるか。また、掲載されている場合、それは単なる絵ではなく実際にアクセスして機能や扱いを学べる作りになっているのか。

(事務局)

今回の調査内では二次元コードは、情報の図書1冊のみに掲載されている。単なる絵ではなく、実際に読み込んで検索画面に飛び、問題を解くといった体験型のワークや、巻末の回答確認に活用できる仕様である。子どもの身近にある情報の一つとして、実際の扱いを学び生活に活かす意味を持たせている。

#### 4. 高知県教育委員会への答申

高知県教育委員会への答申について承認された後、会長より高知県教育委員会事務局に答申を手渡した。

#### 5. 高知県教育委員会挨拶

#### 6. 閉会